

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195900022		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム 紅葉の里		
所在地	夕張市紅葉山235-11		
自己評価作成日	2023.3.14	評価結果市町村受理日	2023.4.25

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0195900022-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0195900022-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和5年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の入れ替わりが有り、落ち着いた環境・出来ない事の方が多く中で、今、一番取り組み・力を入れ始めた事は、その人、その人に適した居住環境を整え支援を行う。「出来る事」「出来ない事」を見極めるそれぞれの能力に応じた自立した生活の維持、馴染みの物や懐かしく感じたりその頃を思い出す事で心地よく、穏やかな気持ちになれる環境づくり、慣れ親しんだ生活様式が尊重される継続性のある生活の維持に重点に置き見直しています。職員と利用者様が一緒に家事を行ったりコミュニケーションを取る事で「介護する側」「される側」の関係ではなく信頼関係をもった繋がりとなり、利用者様のとても明るい笑い声・話し声・歌声がホーム内に響いています。今年は、地域との繋がりに力を入れ認知症の理解を深めていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 紅葉の里」は、JR新夕張駅から徒歩で10分ほどの自然豊かな住宅地に立地している1ユニット9名の事業所である。居間は大きな窓に囲まれた明るい造りで、ソファや食卓テーブルの配置を工夫してそれぞれの利用者が居心地よく過ごせるようになっている。観葉植物などもあり家庭的な温もりが感じられる。新たに就任した管理者とケアマネジャーを中心に全職員で一人ひとりの利用者に寄り添い、その人らしい生活がいつまでも継続できるように温かな支援を行っている。家族への情報提供として、毎月写真入りの「紅葉の里便り」を個別に作成して利用者の様子を伝える取り組みも始めており、家族からは喜びの言葉が寄せられている。感染症の流行により、町内会行事に参加する機会は無かったが、周辺の散歩で挨拶を交わしたりウッドデッキで寛ぎながら犬の散歩をしている地域の方と話をするなど、可能な限り地域住民との交流を継続している。近隣の滝ノ上公園や南部ダムなどにドライブで出かけるなど、数人ずつの外出支援も行っている。食事は旬の食材を利用した彩りの良い美味しい品々が提供されており、利用者の楽しみになっている。管理者は普段から話しやすい環境を整えて職員の意見や提案を反映させて前向きに運営やケアに取り組んでおり、今後もサービスの向上が期待されるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をカウンターに置き出勤時、業務日誌、ケース記録を記入、確認時、も目に入りやすいようにして、実践に繋げている。	理念の中に「地域とともに」という、地域密着型サービスを意識した項目が含まれている。理念を事務所の机上に掲示して、職員の意識づけを図っている。掲示している理念に記載漏れの文言「地域とともに」を追記する意向である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しています。施設近くにある美容室に月1回来ていただき、利用者様の散髪を行いながらコミュニケーションを取って頂いています。	感染症流行のため、町内会行事は開催されなかったが、散歩で挨拶を交わしたりウッドデッキで犬の散歩をしている方と話をしている。近隣の方から果物などの差し入れを受けることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々への認知症に対する理解支援に向けて改まって発信は行っていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、コロナ禍で開催が出来ていない。地域包括(保健福祉課・居宅介護)との情報共有は行っている。	感染症流行のため会議は開催していない。対面での会議が難しい場合も2か月ごとに書面会議を開催し、議事録で事業所の報告を行い、役立つ情報資料なども添付して役所や家族、地域役員に送りたいと考えている。	定期的に会議を開催するよう期待したい。また、テーマを記載した会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見や質問なども会議に反映させるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月発行している「紅葉の里だより」を見て頂いています。介護事故が発生した際には速やかに報告を本社経由で提出し内容について共有している。	管理者は、事故報告などで市役所を訪問している。市役所担当者が研修予定をメールで知らせてくれたり、書類を持って訪れることもある。保険福祉課から感染症に関する情報提供を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組みや対策についての職員間での情報共有や話し合いは行っているが、ミーティングや勉強会は行っていない。いつでも各自、振り返りが出来る様に身体拘束に対する内容等をファイル化し、随時再確認出来る様にしている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備している。3か月ごとに法人合同で委員会を開催している。身体拘束に関して学ぶ機会はあるが、勉強会としてわかりやすく資料を整備しているとはいえない。玄関の鍵は夜間のみ施錠し、閉塞感を与えないように柔軟に対応している。	年2回の身体拘束に関する勉強会資料を分かりやすく整備するよう期待したい。また、年1回は「禁止の対象となる具体的な行為」11項目について全職員で確認するよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待について業務内でも絶対に行わない為に、随時確認する様に取り組んでいる。虐待を受けたと思われる方を発見した場合、通報義務などするように努めている。		

グループホーム 紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用し入居された利用者様が居る為、利用しなければならない方、法定後見人制度、任意後見人制度の違い、本人決定や裁判所決定更に、判断力の低下により後見・保佐・補助対象となる方についてのファイル化を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用前に必ず見学して頂きご家族様の不安や疑問点・認知症の方にとって望ましい生活環境作りを行って居る事を十分に説明し思いを汲み取りながら進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回のお便り発行時、職員と情報を共有し記載している。状態の変化があった場合は、直ぐに電話で連絡を入れて情報を伝えている。	面会時や電話で家族に利用者の様子を伝えて意見や要望を聞き取り、口頭で職員に伝えている。今後は継続的に情報共有できるように、個別に記録したいと考えている。毎月写真入りの個別便りを送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、職員に面談を通じて疑問や不安、提案事項など話し意見を聞いている。	管理者は普段から職員と個別に話す機会をつくり、意見や提案を聞き取っている。利用者が過ごしやすいようにテーブルの配置を変えるなど、環境整備に職員の提案を活かしている。職員は担当の利用者を受け持ったり行事の係を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の労働時間・勤務態度ケアの達成状況に応じて相談、アドバイスをを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や行政主催の研修日程・内容等を回覧し情報提供を行い受講できる環境作りを心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流・参加は出来ていないが地域別の同事業所からの職員の出向で助言助言・意見交換があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	既往歴や生活歴、室内環境を把握し本人の思いや言葉に耳を傾け不安なく安心出来るように、ご家族様より細やかな情報提供をして頂き馴染み親しんだ物を取り入れ環境を整えより良い生活が送れる様に支援する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時に不安や困っている事、施設への要望など伺い安心してサービスを受けれる様に務めている。気軽に相談・来訪されるような声掛け・支援を心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の置かれている状況や介護負担を具体的に聞き取る。本人の持っている残存能力・生活習慣やこだわりなど情報の共有をしその人らしく暮らし続けられるよう支援している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として色々な知識や技術を教えて頂きながら個々の価値観を大切に共に押し付ける事なく尊敬をしお互い支え合い生活を行う。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との繋がりが途切れない様に絵手紙を送ったり色々楽しい交流が出来る様に務める。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での面会規制がありましたが、出来るだけガラス越しではありますが対面対応を行っている。	町内の知人が訪れて窓越しで面会したり、携帯電話で家族と話をしている利用者もいる。家族と法事に出席を予定している利用者もいる。感染症収束後は、利用者の馴染みの場所にも積極的に出かけたいたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の生活の中でリビングルームで自由に過ごして頂けるように声掛け環境づくり。お天気の良い日は、テラスに出してお茶会を行う。カラオケ・ランプなど一緒にいき交流を深めています。		

グループホーム 紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供時の写真を残しています。必要であれば相談・支援を行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報、ご本人やご家族からの思い、好きなこと、又職員から得た情報をアセスメントシートに記載しながら、ご本人、ご家族の思いに近づけるよう努力し、作成しています。	会話や表情、入居前の情報などから思いや意向を把握している。趣味や嗜好などの情報を生活歴に記入している利用者もいるが、全員の情報が充実しているとはいえない。	課題分析シートに興味や嗜好の項目を設け、変化に応じて追記や更新を行うよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・入居前の関係者より情報収集しています。又、日々の職員との会話から得た情報等アセスメントシートに追加記載しながら、以前の生活の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースに合わせて、日々の身体状況を観察し記録し、必要時は職員間の情報の共有を図っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を伺い、アセスメントし、介護計画を作成。入居時は一ヶ月後に見直しを行い、ご本人の身体状況、思いに沿うよう作成しています。	介護計画作成担当者を中心に評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。サービス内容を個別の「ケース記録」に印字し、達成度をチェックしている。変化を記録する欄を統一して評価に活かしたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや個別の変化を報告、記載し、職員へ情報共有している。経過は個別記録に記入、サービス内容をチェックし、介護サービス計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人に合ったサービスの提供を心がけ、身体状況に応じて、支援やサービス内容を見直し、出来る範囲ご本人やご家族の思いに沿えるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族と過ごしてきた行事「秋祭り」を目で見て心で昔と今を思い起こせたりされ、活力となのように努めている。季節(桜・紅葉・ダム他)事のドライブは行きたいルートを選択して2名ずつ楽しめる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、訪問診療(内科・歯科)実施。状態変化の場合、直ぐに連絡・往診体制は整ってます。	ほとんどの利用者が協力医療機関の往診を受けている。家族と専門医などを受診する時は、本人の状況をメモ書きで伝えている。往診は「訪問診療記録」に記入している。通院記録も個別に整備したいと考えている。	

グループホーム 紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置、看護師の訪問は行っていない。全て訪問診療の医師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には医師・病院との情報提供、相談を密に行い、適切な入退院が出来る様に努めている。医療機関と連携を図りながら安心して過ごせるように務める。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の変化に対応しつつ、家族の面会を多くしご家族、本人の希望を出来るだけ取り入れ主治医と連携を図りながら安心して過ごせるように務めている。	利用開始時に、医療行為が必要になった場合や食事がとれなくなった時は事業所での対応が難しくなることを伝えている。利用者の体調変化に応じて医師と家族、事業所で話し合い、より良い方法を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の状態や既往歴、薬の情報などは周知されている。緊急時の対応の訓練は、行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で避難訓練が行えてません。町内会・消防後援会等との情報交換のみ	感染症流行時は避難訓練を実施していなかったが、今年3月に日中の火災を想定した自主訓練を行っている。発電機や災害備蓄品を整備している。職員の救命講習を暫く受けておらず、地震時の対応についても話し合っていない。	感染症収束後は消防署と地域住民の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練を定期的実施するよう期待したい。また、職員の救命講習の受講も進めるよう期待したい。地震時の初期対応や危険箇所の確認、ケア別の対応の話し合いを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない声掛けを心かけ誠意と敬意の気持ちで接しています。尊厳を大切に支援に努めています。	呼びかけを「さん」づけとし、対応で気になる点があれば直接指導したり、業務日誌で注意している。申し送りを利用者には聞こえない場所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から利用者様と共に洗濯物を畳み・食器拭きなどお手伝いの中でコミュニケーションを大切に思いや希望を言い出しやすいように信頼関係を築いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、本人の体調を配慮しペースを把握した上で利用者様に寄り添った支援に努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回地元の美容室の訪問があり、カット・トリートメントを行っている。1人1人の意思によりカットを行っています。化粧品は、ご家族に購入して頂いています。		

グループホーム 紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日は、本人の好みの物を取り入れ提供、季節に合った旬の物を提供しています配膳、下膳は職員と利用者様一緒に行っています。	本部による献立をもとに手作りの食事が提供されている。利用者は配膳や後片付けを手伝い、職員も一緒に同じ食事をとっている。誕生日に生ちらしや赤飯など、好みのものを用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量・水分量など記録に残し把握している。視力低下の方には1つ1つメニュー内容など細かく声掛け提供している。咀嚼状態に合わせた食べやすい形状での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日起床時、毎食後に声掛けをし口腔ケアを行っている。個別で義歯の洗浄、手順の声かけ見守りを行っている。(週1回の訪問歯科受診)		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄状況を把握し、その方に合ったトイレ誘導・声掛けタイミングを計りパット状態を確認しています。	ケース記録と排便表により個々の排泄パターンを把握している。現在は昼夜ともトイレに行ける利用者がほとんどである。誘導の際は羞恥心に配慮するように指導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやカツゲンなどの提供、レクリエーションにラジオ体操を取り入れている。必要に応じて主治医と連携して整腸剤等の調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調や行動により声かけや誘導のタイミングを変え、1番風呂の方に、入浴剤を選んでもらい楽しんで頂いています。	各利用者が、概ね午後の時間帯で3日に1回程度の入浴を行っている。入浴剤を使用したり、浴室内で職員と会話を楽しんでいる。希望があれば同性介助の対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は出来るだけ体操やテラスでの外気浴など身体を動かしている。夜間、眠れない方は、職員が話を傾聴したり、温かい飲み物を提供する事で安心して眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の状態に合った服薬方法を変えて対応している薬の変更がある場合は、日誌(申送り)で情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭の延長と考え家事(配膳・食器拭き・野菜皮むき・野菜選別)など機能に応じ対応している。ビデオ鑑賞・カラオケ・散歩など状況に応じて気分転換の支援を行っている。		

グループホーム 紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて、桜・紅葉見学を好きな飲み物を途中で買いドライブなどの外出を行っている。ご家族が近くに居る利用者様はお孫様と散歩に出かけます。	暖かい時期は周辺を散歩したり、ウッドデッキで日光浴をしている。犬の散歩をする住民と会話したり、近くのコンビニエンスストアと一緒に行く利用者もいる。滝ノ上公園や南部ダムなどにドライブにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得てお金を持っている利用者様は居ます。施設内外で使用できる環境づくりは、行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用者は、3名居ます。その他の方は、ご家族からの電話の取次ぎを行い、ご家族からプレゼントなどが届いた時は、施設からご連絡を話して頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が使われていた馴染みの物や家具・お茶碗など使用し安心して生活が出来る様にしている。食堂やリビングを季節感を出す為、ディスプレイして四季を感じる工夫を行っている。	共用空間は窓が大きくて明るく、窓から周囲の自然豊かな風景を眺められる。食堂のテーブルや居間のソファを個々の利用者の居心地がよくなるよう配置している。トイレや浴室も使いやすく清潔に保たれている。遊び道具や観葉植物があり、家庭的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、気の合った同士や難聴の方のテレビ鑑賞時の場所などその時の状況によって声かけ。新聞を読まれるときは、食堂のテーブルを使用させて頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を活かし生活出来るよう配置され、使いやすいよう居室担当者と、その都度工夫されています。	室内に備え付けの家庭的なベッドとクローゼットがあり、テレビやダンス、戸棚、仏壇など個々に馴染みの家具を持ち込んでいる。壁には家族の写真やカレンダーなどを自由に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎朝、1人1人、居室の掃除(拭き掃除等)を行っていただいています。洗面所やトイレの電気の消し忘れの方などには、わかりやすく用紙に書き貼っています。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム 紅葉の里

作成日：令和 5年 4月 24日

市町村受理日：令和 5年 4月 25日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	定期的に会議を開催するよう期待したい。また、テーマを記載した会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見や質問なども会議に反映させるよう期待したい。	運営推進会議を早い時期に実施する。スタッフと開催のテーマを考える。	新たな施設の報告を兼ねて運営推進会議を行う旨の案内を送り、ご家族様からは、質問・不安や困りごと等の意見交換も出来る様にして会議に反映させる。行政・地域役員との情報共有を定期的に行い、利用者様やご家族様へのサービス向上・提供に繋げる。	
2	35	感染症収束後は消防署と地域住民の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練を定期的実施するよう期待したい。また、職員の救命講習の受講も進めるよう期待したい。地震等の初期対応や危険個所の確認、ケア別の話し合いを期待したい。	避難訓練を実施する。緊急時・災害時の対応策を明確にする。スタッフがスムーズに行動できるよう時間のある時は、再確認する。	消防署・地域住民との昼夜想定避難訓練実施。救命講習開催日把握し参加する。災害時の発電機等の取り扱い講習会を消防署に願う。利用者様1人1人の避難形式を話し合いより良い方法を都度工夫し訓練する。	
3	23	課題分析シートに興味や嗜好の項目を設け、変化に応じて追記や更新を行うよう期待したい。	更新時や変化に応じて、ご本人、ご家族から情報収集していく。新たな情報は追記し、施設職員で共有していく。少しでも充実した生活が送れるように努力していく。	日々の生活から興味や楽しむ様子など、職員間で共有し観察していく。できる能力に応じて好きなことの参加を促していく。	
4	6	年2回の身体拘束に関する勉強会資料を分かりやすく整備するよう期待したい。また、年1回は「禁止の対象となる具体的な行為」11項目について全職員で確認するよう期待したい。	身体拘束・禁止の対象となる具体的な行為の勉強会・ミーティングを行う。	身体拘束・禁止の対象となる具体的な行為の勉強会に使う資料を整理作成しスタッフ1人1人が何時でも振り返れるようにする。	
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。